

LPレコードの録音特性（レコードイコライザーカーブ）

LPレコードにはいくつかのカッティングの録音特性が有り代表的な特性カーブがいくつかあります
 今ではRIAAが標準ですがモノラル録音時代には下記のような録音カーブが使われていた。
 現在も多く残っているレコードがロンドン盤のFFRRで記録されています。

録音特性

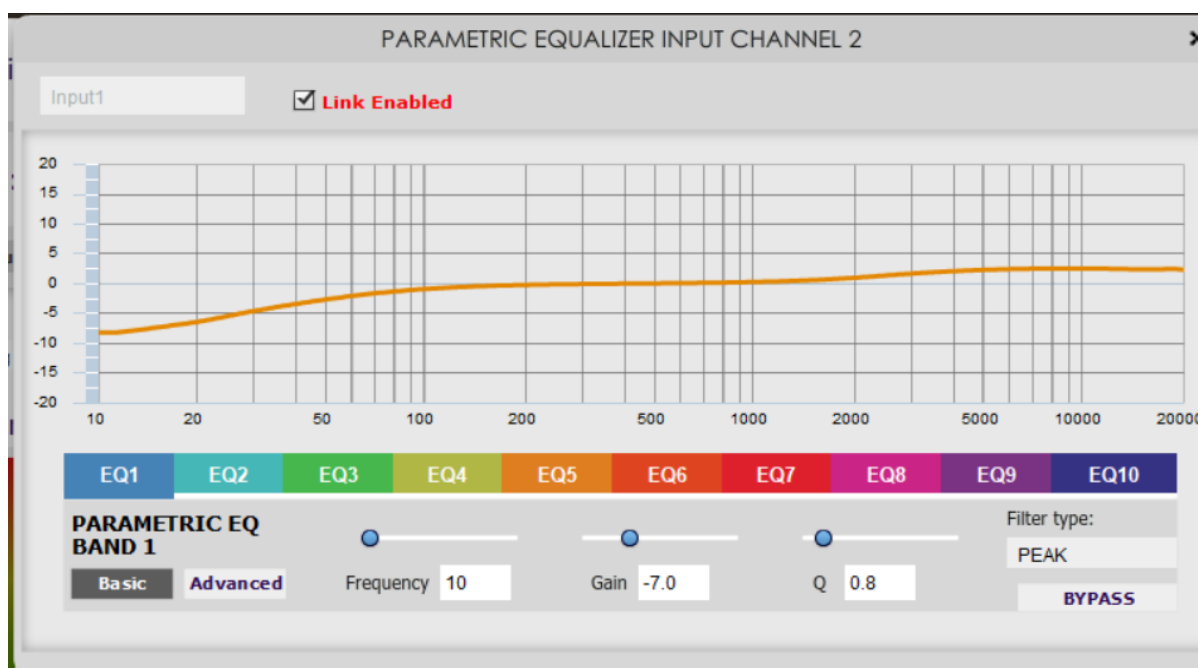
RIAA アメリカレコード協会（Recording Industry Association of America、略称：RIAA）
 標準化を目的に1952年に設立され、1954年に米RCA社が開発したLP・EP用の
 録音・再生カーブ

FFRR 1954年にキングレコードから初めて、FFRR仕様のLP盤が発売された、DECCA
 ロンドンのFFRRは音が良いと評判1958年7月にはその技術を受け継いだレコードで
 のFFSS(Full Frequency Stereophonic Sound 全周波数立体音響)を発表

その他の特性 Columbia、 AES、 Oid RCA、 NAB、

FFRRとRIAA特性の主な違いは低域部50Hzでの録音レベルが約6dB高く記録されている為
 FFRR盤をRIAA特性で再生した場合に低音部の再生音が出過ぎた音になり低音が強調される
 高音部はRIAAと比較して補正数値が少ない、高音部はほぼ±1dBほどに納まっている
 資料を参照

RIAA特性アンプで再生の場合のFFRRへの補正にはPARAMETIC EQを使ってFFRR特性へ近づける



試聴用のレコード FFSS録音

アルビノーニのアダージョ
 ミュンヒンガー／バロック音楽の楽しみ

キングレコード：LONDON (ffss)
 SLA1198

- 1) パッフェルベルのカノン
- 2) アルビノーニのアダージョ
- 3) J.S・BACH：主よ、人の望みの喜びよ

再生方法

計

- 1) 再生専用のFFRR特性のイコライザーAMP

LP音源のダイレクト録音の再生

- 2) LP音源をフラットな特性でDSD録音し音楽再生ソフトAudioGate-4にてFFRR変換して再生



古いLONDONレコードのジャケット写真、1954年頃と思われる。

4) マウントバーニー・オーケストラ
 ムーンライト・セレナーデ

キングレコード：LONDON (ffrr)
 LLB20006

5) モーツァルト ウィーン八重奏団
 クラリネット 四重奏 K581

キングレコード：LONDON (ffrr)
 STS15384

6) J.S・BACH
 音楽の捧げもの カール・ミュンヒンガー指揮
 シュトゥットガルト室内管弦楽団

キングレコード：LONDON (ffrr)
 STS15063

計

7) 5つの銅貨

キングレコード：LONDON (ffss)

ダニー・ケイ／ルイ・アームストロング

ALH 77

曲目

5つの銅貨

聖者の行進



0:04:27

0:01:52

0:07:17

0:13:36

≡



0:02:47

0:28:05

0:00:00

0:30:52

0:02:12

0:03:08